

演題 22. 尿細管上皮細胞に見られる特徴ある所見

○安藤 正（東邦大学医療センター佐倉病院）

【はじめに】尿沈渣において尿細管上皮細胞は判定が難しい細胞の筆頭に挙げられる。理由は、形態が多彩である事、サイズが小さい事が考えられる。様々な疾患で、高頻度に出現しているこの細胞を正しく判定する事はとても重要である。そこで、この細胞をよく観察すると他の上皮細胞にはない特徴があり、判定する上で参考になると思うので報告する。

【所見①細胞質の“尻尾”】剥離した細胞が、尿細管腔を通過する際の浸透圧変化や様々な刺激によってできたと思われる細胞質の“尻尾”。細い糸状の先に細胞質の一部がまるで尻尾の様に付着して見られる。やや太い物や複数本見られる事もあるが、染色性、円柱内に存在する事から尿細管上皮細胞と考える。

【所見②核の周囲が白く抜けてみえる】尿細管上皮細胞は核の周囲が白く抜けている様に見える事が多い。全周性や弧状にみられる場合があるが、細胞形態から尿細管上皮細胞と考える。

【所見③同じ細胞が一对で出現】同じ細胞が二つ結合又は並んで出現している事がある。尿細管上皮は単層立方上皮で、尿細管腔は同じ細胞で構成されている。隣り合った細胞が一緒に出現したと思われる、細胞の特徴、染色性から尿細管上皮細胞と考える。

【考察】尿細管上皮細胞に見られるこれらの特徴は、尿細管腔を通過する際の浸透圧変化や様々な刺激によってできた変性像の一つと考える。

【まとめ】尿細管上皮細胞は、様々な疾患で出現し、時に異型性を示し、悪性細胞との鑑別が必要な場合もある。変性、崩壊している場合も多く、判定が難しいと言う人も少なくない。サイズが小さい、形状が多彩である事を尿細管上皮細胞の特徴の一つと考え、詳細な観察、出現背景を理解する事でこの難しい細胞を正しく分類できると思う。